

福島県会津地方の旅行

右城 猛

まえがき

5月29日(木)に東京の地盤工学会大会議室で通常総会があり、四国支部代議員の一人として出席しなければならなかった。そのついでに妻と一緒に福島県まで足を伸ばすことにした。

5月30日(金) 東京駅9時発の東北新幹線 Max やまびこ 107号に乗る。郡山駅着は10時21分。郡山駅からはレンタカーを借りて妻の運転で福島県の会津地方を観光することにした。

5月30日(金)曇り

鶴ヶ城，飯森山，会津武家屋敷
東山温泉「御宿東鳳」泊

5月31日(土)雨

塔のへつり，大内宿
野口英世記念館，世界のガラス館
裏磐梯猫魔ホテル泊

6月1日(日)晴れ

桧原湖，五色沼
磐梯吾妻レークライン
磐梯吾妻スカイライン
福島駅 13時48分発東北新幹線やまびこ

会津若松

郡山 IC から東北自動車道に入り，郡山 JCT から磐越自動車道を西に走る。11時35分，前方に雲を被った磐梯山が見えてきた。目的地の会津若松はもうすぐである。



東京駅の東北新幹線乗り場



レンタカーのカローラ



29日に泊まった東京のホテル「レム日比谷」



前方に見えるのが磐梯山，もうすぐ会津若松

鶴ヶ城

まずは会津若松のシンボル「鶴ヶ城」を目指す。

文禄2年(1593)に蒲生(がもう)氏が築いた7層の天守閣が鶴の羽に似ていたため、この名前が付いた。

慶長の大地震(1611)で傾き、長い間放置されていたが、加藤明成の時代に鶴ヶ城の大改修に着手。大手門を北側に、天守閣を5層に改め、石垣を改修・新築して現在の形態とした。

天守閣は戊辰の役で砲撃され明治7年に取り壊されたが、昭和40年(1965)に現在の天守閣が再建された。

若松城、会津城、会津若松城のいずれの名前でも正解であるが、市内の案内板などには鶴ヶ城と表記されている。

鶴ヶ城にはボランティアのガイドがいる。以前は団体職員だったという女性が、私たちの案内を引き受けてくれた。



昭和40年に復元された鶴ヶ城



鶴ヶ城で驚かされるのは石垣の石の大きさと積み方。2mの大きさの石による「切込八ギ」



ガイドの話では、背後の六角形の石が鶴ヶ城の石垣のなかで最大とのこと。



石垣は、元々は「野面積」であったが、慶長の大地震で崩壊したため、「切込八ギ」で積み直された。写真の石積は、左側が「野面積」で右側が「切込八ギ」になっている。



天守からの眺め。鉄御門、他門櫓、干飯櫓



鶴ヶ城が最も美しく見えるというビューポイント。ボランティアで観光ガイドをしてくれた女性がシャッターを押してくれた。



福島県指定重要文化財の茶室麟閣（りんかく）、千利休の子・少庵が建てたと言われる茶室。

戊辰戦争後、城下に移築され保存されていたが平成2年に元の場所である鶴ヶ城内へ移築復元された。

飯森山(いいもりやま)



鶴ヶ城の東にある丘陵地。明治元年(1968年)8月22日、白虎隊の20名の若者が、鶴ヶ城が没落したと誤解して自刃(じじん)した地。



戸ノ口洞穴

今から400年ほど前に猪苗代湖の水を会津地方に引くためにつくられた用水トンネル。

戊辰戦争の時に白虎隊が鶴ヶ城の情勢を確かめようと帰城の途中に通過した洞穴として観光名所になっている。



戸ノ口堰洞穴の横に、不思議な句「天高し ピサの斜塔とさざえ堂」を刻んだ石碑が建てられていた。石碑の所から坂を上がると傾斜して見える「さざえ堂」があり、はじめてこの句の意味を理解することができた。

「さざえ堂」の入り口には、これまた不思議な意味のことを書いた看板が立てられていた。

さざえ堂の特色として、

1. 上がりも下りも階段がない。
1. 一度通った所は二度と通らない

さざえ堂は1796年に建立された、高さ16.5メートルの六角三層のお堂。サザエの形をしているので「さざえ堂」と呼ばれているが、正式名称は「円通三匠堂」(えんつうさんそうどう)。



傾斜して見えるさざえ堂

独特な2重らせんのスロープに沿って西国三十三観音像が安置され、参拝者はこのお堂をお参りすることで三十三観音参りができるという大変合理的なお堂。また、上りと下りが全く別の通路になっている一方通行の構造により、たくさんの参拝者がすれ違うこと無く安全にお参りができるという世界にも珍しい建築様式となっている。平成8年に国重要文化財に指定された。

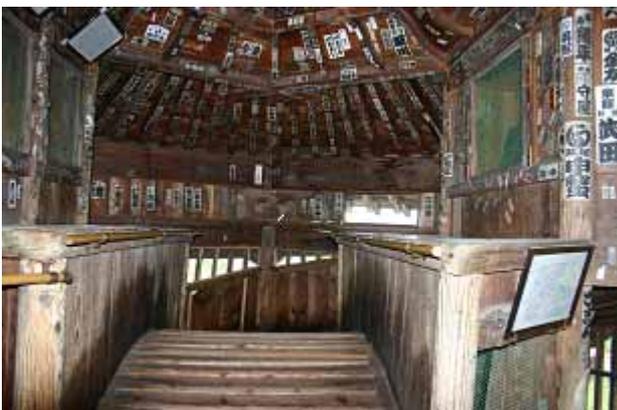
さざえ堂に入ると、上りに一回転半、下りにまた一回転半、合計三回転することになる。三匝堂の「匝」は「めぐる」という意味があり、三回めぐりながら観音様をお参りすることになる。



斜路になっているので階段がない



白虎隊の墓所



斜路の最上部の折り返し点



白虎隊が炎上する鶴ヶ城を見て自刃した場所



白虎隊が炎上する鶴ヶ城を見て自刃した場所

会津武家屋敷(あいづぶけやしき)

戊辰戦争で消失した武家屋敷のうち、家老西郷頼母邸を復元した観光スポット。復元された西郷頼母邸は約 400 坪の面積、35 室におよぶ宏大な邸宅で昔をしのばせる。他にも旧中畑陣屋、茶室麟閣を再現した茶室領南庵などがある。



会津武家屋敷



家老西郷頼母邸の入り口



厠(トイレ)



厠の構造



風呂。台所で湧かした湯を風呂桶に入れていた。



水車小屋での精米の様子

御宿東鳳（おんやどとうほう）

5月30日の宿泊は「御宿東鳳」。東山温泉の入り口の高台にある。東山温泉の中では、JTBのアンケート調査で最も評価が高かった。

私たちの客室は、20階建てタワー館の10階の部屋。窓から会津若松市内を一望できる。鶴ヶ城も望むことができる。ロケーションは最高。

このホテルの目玉はタワー館の3階にある露天風呂。温泉に浸かりながら会津若松の夜景を楽しむことができる。なんという贅沢。



女性用の露天風呂「宇宙(そら)の湯」



男性用の露天風呂「棚雲(たなぐも)の湯」



食事も満足

塔のへつり

9時にホテル東鳳を出発。生憎の雨日和。外気温は9度。冬のような寒さである。

塔のへつりは南会津を流れる阿賀川にある。昭和18年に国の天然記念物に指定された。

「へつり」とは地元の方言で険しい崖のこと。一帯は第三系凝灰岩、凝灰角礫岩、頁岩などが互層になっており、その軟岩部が長年の歳月による浸食と風化作用を受けて、全長200mにわたる大規模な奇岩を形成している。主なものには屏風岩、烏帽子岩、護摩塔岩、九輪塔岩、櫓塔岩、獅子塔岩、鷲塔岩などがある。



大内宿(おおうちじゅく)

全長約 450m の道の両側に茅葺の民家群がほぼ等間隔に建ち並んでいる。藁葺き屋根の宿，お土産屋，蕎麦屋等が建ち並び，会津でも有数の観光スポットとなっている。昭和 56 年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

宿場町の奥に神社に登る石段がある。その石段を登って上から撮ったのが下の写真。



大内宿は美術の題材としては最高。写真やデザインの愛好家グループを多数見かけた。



大内宿の中には，茅葺きの屋根をトタンで覆った家もまだ残されている。順次，元の茅葺きに復元しているようで，作業中の民家もあった。



布で造った飾り物。魚やほおずき，干し柿，赤ななばん，ブドウ，カボチャ，干している大根など実にリアルに造られている。



山本屋はガイドブックでも有名な店。昔ながらの製法で防腐剤を入れずに作っているという味噌を買う。この店では，そば，味噌，漬け物のネット販売もしている。

公衆トイレは，大内宿入り口の駐車場にしかないというので，ここでトイレを借りる。



大内宿の町並み展示館。私が子供の頃に見た農機具が展示されている。



この日は9度と寒かったので 囲炉裏で暖をとる。



昼食は、喜多方に行って名物のラーメンを食べようかと思っていたが、「ねぎ一本で食べるねぎそば」、「テレビ・雑誌でおなじみ ねぎそば」という看板に好奇心をあおられて店に入る。



これが大内宿の名物となっている「ねぎそば」。昔は結婚式などのお祝い事のときに振舞われていた。

店内の客のほとんどが「ねぎそば」を食べていた。一杯が1000円弱と安くはないが、量が多くて味が良い。何よりも、大胆でユーモラスなアイデアが良い。千円の価値は十分ある。



1本のネギを箸代わりにして、ネギをかじりながらそばを食べるので、ネギは次第に短くなる。

店の中には囲炉裏があり、その上の天井の棚には「栃の実」という栗によく似た木の实が網袋に入れて置かれていた。



国道121号から大内宿に入る県道329号

会津若松から南へ延びる国道121号、国道121号から大内宿に入る県道329号は落石危険箇所が多く、落石防護ネット、落石防護柵、ロックシェッドなどが見られる。



国道 121 号添いには、茅葺き屋根にトタンを被せた民家が多い。とても質素な暮らしをされているように感じられた。

野口英世記念館

昭和 3 年(1928)5 月 21 日、野口英世はアフリカのガーナで黄熱病原の研究中に自身も感染して 51 歳で死去した。その追悼会に出席した人々により「野口英世博士記念会」を設立する話がまとまり、最初の事業として翌年に生家の保存と二つの記念碑を建立、そして昭和 14 年(1939)に「野口英世記念館」が開館した。

野口英世の生い立ちを「誕生から少年時代」「上京時代～清作から英世へ」「渡米前期」「十五年ぶりの帰国」「ロックフェラー後期～中南米」「人類のために死せり」のコーナーに分け、遺品や写真などが展示されている。



千円札の肖像になっている 27 歳の時の写真



猪苗代湖の北側の湖畔にある野口英世記念館



野口英世の生家



野口清作が火傷をした囲炉裏



野口英世と母シカ

明治 45 年(1912),英世宛てに母シカが書いた手紙も展示されている。全文を下記に紹介する。

『おまいの しせにわ(出世)には みなたまけました わたくしもよろこんでをりまする はるになるト みなほカイド(北海道)に いてしまします わたしも こころぼそくありまする ドカはやくきてくだされ はやくきてくたされ はやくきてくたされ はやくきてくたされ はやくきてくたされ いしょ(一生)のたのみてありまする にしさむいてわ おかみ(拌み) ひかさむいてわおかみ しております きたさむいてわおかみおります みなみたむいてわ おかんでおりまする はやくきてくたされ い つくるトおせて(教えて)くたされ これのへんち(返事)ちまちてをりまする ねてもねむられ ません』

野口英世記念館では、野口英世が親友・石塚三郎宅を訪れた際に書き残したとされる「望小達大」(ぼうしょうだいたつ)という色紙を購入した。『人のためになる小さなことを一つ一つ謙虚にこなしたことが、大きな成果になった』という意味らしい。

野口英世の色紙を見て、村山保先生が大磯の吉田茂・元総理の家を訪問した際に書いて貰ったという「心欲志大」という色紙を思い出した。村山先生より、「心はきめ細かく志は遠大に」という意味の言葉で、前漢(紀元前 206~8 年)の哲学書・淮南子(えなんじ)の「心欲小而志欲大、智欲圓而行欲方」からとった言葉であると教えていただいたことであった。



野口英世が書いた色紙

野口英世記念館では、小松山六郎著、福島民有新聞編「素顔の野口英世」(1800 円)という本を購入した。

2004 年 4 月 14 日から 12 月 23 日まで福島民有新聞で連載された記事を取りまとめた本で、野口記念館所蔵の貴重な写真がたくさん掲載されている。

裏磐梯高原の桧原湖と猫魔ホテル

磐梯山は明治 21 年の大噴火で桧原湖(ひばらこ)や五色沼など約 300 の湖沼をもつ裏磐梯高原をつくった。裏磐梯高原には「磐梯山ゴールドライン」、「磐梯吾妻レークライン」、「磐梯吾妻スカイライン」の 3 つの山岳有料道路がある。

桧原湖は、最大水深 31m、湖岸周 31.5km と裏磐梯高原で最大の湖。磐梯高原の自然に触れる散策路、遊覧船、キャンプ場などがある。冬場には氷結した湖上でワカサギ釣り、夏場にはバスフィッシングなどで賑わっている。

桧原湖は南北に細長い湖。私たちが宿泊した「裏磐梯猫魔ホテル」は湖の南端に位置していた。



裏磐梯猫魔ホテル



ホテルのロビーには假屋崎省吾の生け花が飾られていた。



早朝の露天風呂にカメラを持ち込み、霧に包まれた桧原湖を撮影する。露天風呂の湯面に周囲の松が映っている。



ホテルの売店で売っていた赤べこ。赤べこは会津地方の郷土玩具の張子人形。「べこ」とは牛のこと。赤色は魔避けの効果があるといわれている。首と胴の接続に独特の工夫がしてあり、愛嬌のあ

る顔に触れると上下に左右に振り子運動をする。

桧原湖の周囲は、新緑がとても綺麗ということ、車なら1時間程度で回れるということであったので、五色沼の前に桧原湖を一周することにし、8時30分にホテルを出発した。

ホテルから湖畔を時計回りに少し走ると、湖に降りる道がありバス釣りをしている男性を見かけた。そこはブナ林に覆われて新緑がとても綺麗であったので、降りて行って記念撮影をする。

さらに進んで桧原湖の中間付近に来ると「野鳥の森」があり、パネル展示した休憩施設と公衆トイレがあった。その前の湖畔の景色がとても素晴らしい。桧原湖が美しいと感じられた場所の一つである。湖の奥にかすんで見える山が磐梯山である。



ブナ林で覆われて新緑がとても綺麗



後方に見える山は磐梯山

湿地帯の「野鳥の森」には、ウッドチップを敷き詰めた歩道や木製の遊歩道が整備されている。小鳥のさえずりを聞きながら散策すると心が癒される。



木製の橋の遊歩道が整備された野鳥の森



ブナ林の中には水芭蕉が繁茂している



磐梯高原休暇村がある東の湖畔



松原湖の東湖畔から見える磐梯山

五色沼

五色沼は、1888年7月15日に起きた磐梯山の水蒸気爆発により山が崩壊し、川が堰き止められ生まれた沼の集まり。「毘沙門沼」、「赤沼」、「みどろ沼」、「竜沼」、「弁天沼」、「青沼」、「るり沼」、「柳沼」など5つは軽く超えてしまうほどに実に多くの沼がこの一帯に点在している。

五色沼が有名になったのは、点在する沼の数の多さではなく、ひとつひとつの沼が持つその表情、個性的な輝きにある。

それぞれの沼が季節や天候、時間帯によって、エメラルドグリーンやコバルトブルーなどさまざまな色を放つことが、この五色沼の最大の特徴。

不思議な色合いを見せるのは、アロフェンといわれる鉱物質を含む成分や沼の酸性度、水草に付着する酸化鉄などの沈殿物、それに水深や太陽光などの様々な要素が絡み合って生まれる自然現象であると一般的に説明されている。

毘沙門沼から柳沼までの探索ルートは全長は、3.6kmあり、片道の所要時間は1時間10分とされている。私たちは毘沙門天だけを見て、途中から駐車場に引き返してきた。



五色沼の地図



五色沼を代表する毘沙門沼



林の中は野鳥のさえずりや蝉の鳴き声で賑やか



磐梯吾妻レークライン

磐梯吾妻レークラインは、猪苗代町大字若宮から北塩原村大字檜原に至る 13km の有料道路。昭和 47 年に開通した。通行料は 930 円。

磐梯山の噴火によってできた檜原湖，小野川湖，秋元湖の湖沼群を望むことができることから，磐梯吾妻レークラインと呼ばれている。途中には中津川渓谷がある。



毘沙門沼の景色



檜原湖，小野川湖，秋元湖の 3 つの湖を同時に望むことができる峠。背後の山は磐梯山。



北塩原村と猪苗代町との町境に位置する磐梯朝日国立公園内の中津川渓谷

磐梯吾妻スカイライン

磐梯吾妻スカイラインは、福島市町庭坂字高湯から福島市土湯温泉町字鷲倉山に至る延長28.7kmの有料道路。通行料は1570円と高いが、「日本の道100選」に選ばれているだけのことはある。とても素晴らしい。特に、標高が最も高い浄土平には感激させられた。



スカイラインの道路脇に残雪が見られる。



大倉川の砂防堰堤



雪が残る磐梯朝日国立公園浄土平。以前に来た記憶がよみがえってきた。



磐梯山



磐梯朝日国立公園浄土平



背後の山は標高 1707m の吾妻小富士



硫黄の臭いがする



「毒ガス発生のため停車禁止」の標識が出ていたが、停車して車外から撮影。



落石危険箇所が多い

会津藩の教え

いま、日本では耐震強度偽装、食品偽装、再生紙偽装、年金偽装など信じられないようなことが次々に発覚している。勝つためには手段を選ばない。嘘をついてでも、社員をリストラしてでも、卑怯なことをしてでも儲かれば良い。そんな風潮がまかり通っている。人としての思いやりや品格などどこにも見られない。そのような中、会津若松には日本人の魂である武士道の精神が大切に受け継がれているように思われた。

その一つが、15項目にわたる会津藩の家訓である。兄を敬い、弟を愛すべきである。賄賂を贈ったり、他人に機嫌取りを要求してはならない。各々の者はえこひいきをしてはならない。法を犯す者がいたら、決して許してはならない。などのことが書かれている。会津藩では、毎年正月 11 日と 8 月 1 日の 2 回、儒者にこれを拝読させ、藩主はじめ家臣達は礼服を着用して謹聴し、「会津武士の道」を再認識する習わしとしていたようである。

また会津藩には、藩校「日新館」に入学する前の遊び仲間(6歳から9歳)が毎日遊びの前に話し合う自活的な「什の掟」(じゅうのおきて)という定めもある。什とは「十人」を一単位とする組織のことである。

什の掟

1. 年長者の言ふことには背いてはなりません。
2. 年長者にはお辞儀をしなければなりません。
3. 虚言(ウソ)を言ふ事はなりません。
4. 卑怯な振る舞いをしてはなりません。
5. 弱いものをいぢめてはなりません。
6. 戸外でモノを食べてはなりません。
7. 戸外で婦人と言葉を交へてはなりません。

ならぬ事はならぬものです。

この掟を破るとその程度に応じて、「無念」、「しっぺい」、「絶交」、「手あぶり」という制裁が加えられる約束になっていた。

いまの日本人に求められているものは、会津藩の武士道精神ではなからうか。

白虎隊の歌

白虎隊の歌には、「会津の山河風荒れて 葵に
勝る菊の花 二十歳の春を待たずして 蕾のま
まで散るも武士 眦決す白虎隊」という歌や、「戦
雲晦く陽は落ちて 孤城に月の影悲し 誰が吹
く笛か識らねども 今宵名残の白虎隊」、橋幸夫
が歌った「会津若松鶴ヶ城 二十日籠りて城落ち
ぬ 血潮にまみれたその旗は 哀れ少年白虎隊」
などがあるが、飯森山の白虎隊の墓所がある広場
には、嶋田馨也による歌詞が石碑に刻まれていた。
この歌の作曲は古賀政男であった。



白虎隊の歌詞が刻まれた石碑



広場に近い土産屋の女主人による白虎隊の踊り

戦雲(くら)く 陽は落ちて
孤城(こじょう)に月の 影かなし
誰(たれ)が吹く笛か 知らねども

今宵名残りの 白虎隊

紅顔可憐(こうがんかれん)の 少年が
死をもて護る この砦
滝沢村の 血の雨に
濡らす白刃の 白虎隊
《詩吟》

南鶴ヶ城を望めば砲煙あがる
痛哭涙をのんで且彷徨す
宗社亡びぬ我が事おわる
十有九土腹を屠って斃る

以下省略

あとがき

福島県には、四国建設コンサルタントに勤務していたときに社員旅行で来た記憶があった。白虎隊が自刃した飯森山と野口英世の生家、英世の母シカが書いた手紙は鮮明に覚えている。昔のアルバムを開いてみると、昭和47年6月、今から36年前であった。「磐梯吾妻パークセンター」の看板がある建物の前で記念撮影をしていた。現在は廃業し、開店準備中となっているが、この建物は今も浄土平にある。

福島県には、「塔のへつり」や「裏磐梯高原」、
「浄土平」など素晴らしい景勝地、そして温泉が
たくさんある。このところ多忙のために疲労しき
っていた身体を静養させ心を癒すことができた。

また、会津藩の武士道精神、会津藩校「日新館」
の教育方針、集団で自刃した白虎隊の話、野口英
世と英世を支えた人々の愛情の記録などには感
動させられた。それと同時に、今後の会社経営を
考える上で教えられることが多々あった。

(2008年6月3日記)